

編集後記

原稿既送後に判明したことであるが、本学、今小路学長は、正月六日羽田空港出発、釈尊史蹟研究の爲め、印度に向われ、二月初旬に帰学予定、全学園はあげてその無事を念ずる。学園の教育に大きな土産が充分期待出来よう。

本号、塩野助教授の巻頭言を読んで、誰しも落下するリングを鑑た時のニュウトンの姿を想起するでしよう。解りきつたことであるが、毎日の食事について考えさせられる。又、富田教授の生命に関する論文は興味を呼ぶ。特に生命と物質の関連性の点で。その昔（一一三〇—一二〇〇年）、朱子が人間を構成するものは、他の物質と同じく「氣」である。つまり、人間も物質である。物質であればこそ、すべての物質が相互間に調和の原理として保有する「理」を人間もまた、保有する、と云つた思想に思いを寄せると、生命の秘密も解明出来るような気がしてこの論文の意味が、一段と深重なものを感じられる。

他の諸先生の論文も、一段と科学性を帯びた研究成果であり、われわれ委員の誇りとするところであります。感謝。特に本誌として創刊以来、はじめて、助手の研究を、今回、掲載しました。今後、各号に就任順に一編を發表していくことに決まりました。助手諸氏の攻勢を期待いたします。

九月の教授会の議を経て、次号から、染色学の浜崎教授を加えて編集委員会が強化されたことは、誠に喜ばしい。どうか、その編集方針につき、御氣付きの点は、私共委員に、ご教示ご叱正あらんことを。（荒井生）

編集委員

荒井 貞雄
田中 重太郎
塩野 縁子
馬淵 卯三郎

昭和三十七年一月十五日 印刷
昭和三十七年一月二十日 発行

大阪市東区本町四丁目

編集兼 相愛女子大学
発行者 相愛女子短期大学

京都市東山区東大路松原上ル

印刷所 協和印刷株式会社
電話代表⑦七一三

大阪市東区本町四丁目

発行所 相愛女子大学
相愛女子短期大学

電話大阪⑦〇三九四番（代表）
八八八〇番（昼・夜間）